

# 地産地消レストラン好評

熊本市に隣接する旧合志町地区（現合志市）は新親住宅化が進む一方で、昔からの田畑も残り、なほ農業が盛んだ。地産地消を図ろうと、5年前、女性有志たちが地元で採れる農産物の料理を出すレストランを開き、静かな人気を呼んでいる。

（千鶴田梨）

## 月に1度朝市も

レストランは「すみっこの台所」。新親住宅地などの

古村明子さん(55)は力を込める。

主婦、農家の女性ら3人(竹く29歳)が、合志市総合センター「スイートル」(合志市福原)の一角に店を構えている。

「合志には豊富な農産物がある。その良さを知ってほしいんです」。店の代表で、県外から移り住んで来たという

メンバーに飲食店を経営した経験はなく、何十年も作ってきた家庭料理がメニューの中心。人気は季節の野菜を使った方し。旧合志町周辺に

伝わる郷土料理「あんもちだ汁」も提供している。

3年前からは、地産地消の取り組みの一環として、「1元

気の森公園」(合志市境久富)で月に1度の朝市も主催。地元農家がとれたての野菜を並べ、多くの人たちが買い求めにやってくる。

者と農家をつなぐ場となっている。古村さんは「地域の核として、さくら(双方の)交際の輪を広げたい」と意気込みを語った。



代表の農産物を使った様々なメニューが並び、朝市も「すみっこの台所」で開く。

平成23年8月10日(水) 読売新聞